***２０１３年１１月１５日（第５版）
**２００７年１２月２１日（第４版）

承認番号　21900BZX01280000**

機械器具　０３　医療用消毒器
管理医療機器　小型液体用高圧蒸気滅菌器（コード：４１４５００２０）**　特定保守管理医療機器

オートクレーブ　ＨＰＴ－１２Ｓ

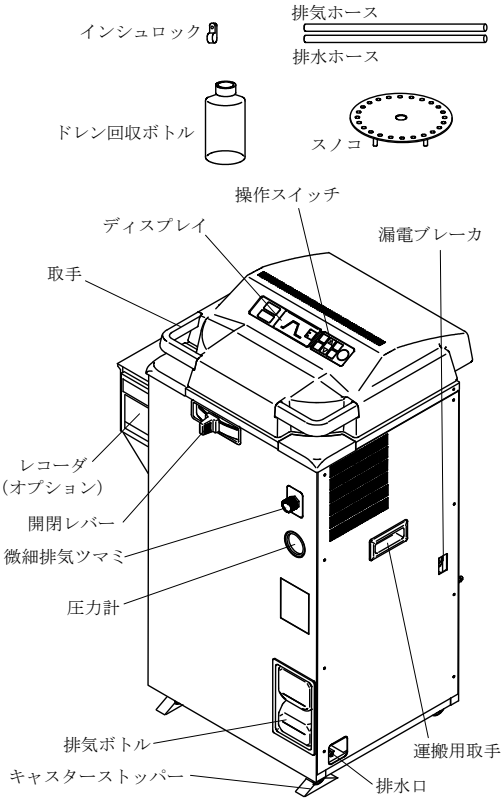
【警告】
法定危険物、酸、アルカリ成分を含有する物質の滅菌は絶対に避ける事。爆発事故や、釜、配管の腐蝕及びパッキン類の劣化の原因となる。
釜内圧力が「0MPa」に降下していることを確認してからフタを開ける事。

【形状・構造及び原理等】＊

１．構成

本機器は本体と附属品で構成されている。本体の附属品として排気ボトル、スノコ、排水ホース、排気ホース、ドレン回収ボトル、インシュロック、キャスターストッパーがある。
選択可能なオプションは、レコーダがある

本機器はＥＭＣ規格 JIS C 1806-1:2010 に適合している。***



２．電気的定格

定格電源電圧及び周波数　：AC100V±10%　単相　50/60Hz
最大定格電力（入力電流）：2kW（20A）

取扱説明書参照

３．寸法及び重量

547mm(W)×1046mm(H)×532mm(D)
57kg
（オプションを除く）

取扱説明書参照

４．動作原理

運転を開始すると、釜内に供給された水が電気ヒータにより加熱され、水蒸気が発生する。釜内及び被滅菌物内に滞留している空気は、温度センサが規定温度を検知し規定時間が経過するまで、水蒸気の圧力により、排気弁から排気ボトルへ排出される。規定時間経過後、排気弁が閉じ釜内は水蒸気により加熱及び加圧される。温度センサが設定された温度を検知すると、マイクロコンピュータ内の滅菌タイマが作動を開始する。その後、設定温度を保持しつつ設定された時間、滅菌が行われる。

取扱説明書参照

【使用目的、効能・効果】＊

高圧を有する蒸気を容器内に発生させ湿熱を利用し医療に使用する器具機材を滅菌すること。

【品目仕様】＊

滅菌温度調節器：設定範囲　105～135℃
　　温度調節精度　設定誤差　0～+2℃
　　調節感度　±1℃
滅菌タイマ　　：設定範囲　1～250 分
　　滅菌時間は設定値を下回らないこと。
滅菌性能　　：JIS T 7324:1989 医療用小型高圧蒸気滅菌器による滅菌性能試験において、生物学的インジケータのすべての胞子が死滅すること。

【操作方法又は使用方法等】

設置方法
①電源コードを定格電源に接続する。
②右側面のブレーカ、操作スイッチ部の電源スイッチを「入」にする。
③開閉レバーを、開側(右)にスライドする。
④取手をつかみ、フタを開ける。
⑤附属品を取り出す。
⑥水平で丈夫な場所に置き、右側 10 cm後側 12 cm以上開け、キャスターストッパーでキャスターを固定する。
⑦排気ボトルに注水する。
⑧スノコを釜内に入れる。
⑨ドレン回収ボトルを取り付ける。

取扱説明書参照

管理番号 S02E-010-E

取扱説明書を必ずご参照下さい。

操作方法

①操作スイッチ部の電源スイッチを「入」にする。
②開閉レバーを、開側(右)にスライドする。
③取手をつかみ、フタを開ける。
④釜内に注水する。
⑤被滅菌物を入れる。
⑥マグネットキャッチが金具に吸着するまでフタを閉める。
⑦開閉レバーを閉側(左)にスライドする。
⑧コーススイッチにより、コースを選択する。
⑨変更／確認スイッチにより、滅菌温度、滅菌時間を変更する。
⑩スタート／ストップスイッチを押す。以降は自動運転となる。
⑪滅菌終了後、釜内圧力が「0MPa」に降下している事を確認し、開閉レバーを開側(右)にスライドする。
⑫取手をつかみ、フタを開ける
⑬被滅菌物を取り出す。

取扱説明書参照

【使用上の注意】

・開閉レバーの操作（開・閉）は、必ず電源スイッチを「入」にして行う事。
・連続して運転する場合は、フタを開けたまま 15 分以上放置し、釜内温度が 50℃以下になっていることを確認してから開閉レバー操作を行う事。
・滅菌設定時間を長くした場合は規定より水を多めに注水する事。
・通気孔から異物（金属類、液体）を入れない事。火災、感電、故障の原因となる。
・電源コードを無理に曲げたり、ねじったり、結んだり、継ぎ足したりしない事。また、重い物を載せない事。
・定格電圧以外の電源には絶対に接続しない事。火災、感電の原因となる。
・アース付きコンセント以外に接続する場合は、アース線を接続してから電源を接続する事。
・アースは、Ｄ種接地工事以上の工事をした接地線に、確実に接続する事。ガス管及び水道管には、絶対に接続しない事。
・フタはゆっくり開ける事。フタに衝撃が加わった場合、フタのヒンジが破損する恐れがある。
・フタのフタパッキンのあたる部分に、異物がないか確認してからフタを閉じる事。異物があると蒸気漏れの原因となる。
・廃棄物処理バッグ等の袋を使用し滅菌する場合は、金網カゴに入れて釜内に収容する事。袋のまま収容すると過温、過圧、空だきなどの原因となる。
・フタを閉めるときに、フタで手を挟まないように気をつける事。
・滅菌完了直後にフタを上げると、釜口より蒸気が出るので手や顔を近づけない事。
・運転終了後、フタ、釜、パッキン、パネル等は高温になっていて火傷をする恐れがあるので直接手で触れない事。
・収容物を取り出す場合は、釜内の蒸気が抜けてから、火傷防止のために耐熱性皮手袋等をはめて行う事。
・液体は温度が下降するまでにはかなりの時間がかかり、火傷の原因となるので液体の温度が十分に下降していることを確認してから取り出す事。
・釜内に圧力がある状態では、排気ボトルの取り外し及び釜内の排水は行わない事。熱湯及び蒸気が噴き出し、火傷をする恐れがある。
・表示に異常が発生したときは、電源スイッチを「切」にし、もう一度操作をやり直し、再び同じ様な状態になるときは、電源を切り、取扱店、または販売元まで連絡の事。
・万一本製品に異常があるとき（変な音やにおいがする、煙が出る）は、直ちに電源を切り、異常が継続していないことを確認して、取扱店、または販売元まで連絡の事。

【貯蔵・保管方法及び有効期間等】

設置環境

温度 5～35℃、湿度 10～85％の結露のない室内。
右側 10 ㎝以上、後側 12 ㎝以上開けて、水平で丈夫な場所。
水、薬品が掛かったり、腐食、爆発性ガスの発生する場所は避ける。
海抜 800m 以上（山岳地域等の低気圧状態）で使用しない事。

耐用期間＊

8 年間［自己認証（製造業者データ）による］
ただし、使用状況、管理状況により、長くなる場合又は、短くなる場合がある。

取扱説明書参照

【保守・点検に係る事項】＊＊＊

［使用者による保守点検事項］

・釜内	1 日に 1 回、水を含ませた布で釜内、フタパッキン、フタのフタパッキンがあたる部分を清掃する。 １日に１回、釜内の水を交換する。
・定期自主検査	1 年以内ごとに 1 回、附属の自主検査確認書をもとに各主要部品の検査を実施する。
・再使用時	しばらく使用しなかった後、再度使用する場合は附属の自主検査確認書をもとに各主要部品の検査を実施する。

取扱説明書、自主検査確認書参照＊

［業者による保守点検事項］

・定期点検	1 年に 1 回、以下の項目を含む定期点検を行うこと。 設置状況、周囲環境 釜内温度測定 絶縁抵抗 電気部品
・フタパッキン	2 年に 1 回、新品と交換する。
・シリコンホース	3 年に 1 回、新品と交換する。
・排気ボトル	4 年に 1 回、新品と交換する。
・空だき防止装置	4 年に 1 回、新品と交換する。
・安全弁	4 年に 1 回、新品と交換する。
・漏電ブレーカ	4 年に 1 回、新品と交換する。

【包装】＊

一式

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称及び住所等】＊

製造販売業者：株式会社平山製作所
埼玉県春日部市豊野町２丁目６番５号
（０４８）７３５－１２４１

製造業者　　：株式会社平山製作所
埼玉県春日部市豊野町２丁目６番５号
（０４８）７３５－１２４１

販売元：株式会社いすゞ製作所
東京都新宿区西落合３丁目８番１９号
サービス窓口　TEL （０３）３９５１－１１７４
内線　１４０　～　１４３
FAX （０３）３９５１－１１７５

取扱説明書を必ずご参照下さい。

管理番号 S02E-010-E